

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800194		
法人名	医療法人 豊寿会		
事業所名	グループホーム皇子原	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173番地3		
自己評価作成日	平成24年5月10日	評価結果市町村受理日	平成24年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571800194&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571800194&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年6月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一法人の診療所が併設しており、緊急時などご本人、ご家族に安心して入居していただける。  
年間行事や外気浴時など、3棟間で交流があり、1棟に留まらず活動を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員間の問題を含め、物事の扱い方、処理の仕方に知恵と平衡が取れており、職員もそれを分かっている、信頼している。職員間で問題がある場合は、一人ずつ別々に呼んで意見を聞き、公平な扱いをしている。このために、管理者と職員の意思の疎通が図られている。職員は、利用者の変化に気づいた時には、いつからそのようなことが起きているかを他の職員とも話し合い、そこから原因を探り、対応策を考えるようにしている。毎月家族に届けられる「皇子原新聞」の内容は、認知症を含め充実した内容になっている。また、より分かりやすい文章で、大きめの活字になっている。利用者個人に必要なことが、「お便り」として同封されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関など目に入る場所に掲示しており、いつでも理念を認識し、それを踏まえたケアを全員で行えるようにしている。	「老いても心豊かに生きることを応援し、個性に共感する介護を目指す」を理念として掲げ、利用者本位の介護を目指している。利用者が寝ているとき、当人の状態を考慮に入れて、起床を促すかどうかの判断をしている。	地域密着型の意義を踏まえた理念作りを期待したい。開設当初からの理念なので、見直しも必要か検討してほしい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭等で、近所の保育園に出し物依頼をしたり、バザーで地域の方に来て頂き、交流を行っているが、日常的にはできていない。	自治会加入を求めているが、了解を得られていない状況である。機会を見いだして地域とのかかわりを求めている。隣家の方が花を持って来られたり、職員と利用者で訪問するという交流もなされている。	区長とのかかわりを今後も密にして、地域の情報などを得たり、ホームとして参加できることはないかなど、漸進的に地域とのつきあいを増やしていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での認知症の勉強会を町内の介護保険施設職員にも参加を促し、理解を深める取り組みを行い、そこから地域の人々へ発信できるように努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行事やサービスの内容について報告を行い、その際、各委員からの意見を取り入れている。	区長が新たに加わり、メンバーからボランティアの情報が得られ、活用して成果が得られている。出された意見に刺激され、同法人のデイサービスとの交流を持つようになり、利用者が知人と再会し、会話を楽しむ機会が得られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者と運営推進会議や必要に応じて連携をとり、協力関係を築いている。	管理者自ら出かけ、担当者に質問や相談を行っている。ホームで開く研修会の情報を町内の介護施設に流してもらうよう依頼し、町の会議室を借りて研修を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。法人内で身体拘束委員会を設けて、身体拘束ゼロの取り組みを行っている。	身体拘束委員会は、月に一回集まり、扱った内容を職員にミーティングで伝えている。言葉による制限を常に職員は配慮するように努めている。玄関は解錠されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティング等で、虐待についての話を常に行い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや勉強会などで機会を作っている。活用例はない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点などご意見をお伺いし、ご納得いただいた上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で意見を伺ったり、意見箱を設置して、意見を反映できるようにしている。		口頭での家族の意見が反映されている。入浴や食事のことなど、利用者を観察したものや過去の習慣を含めたものなど、家族ならではの役立つ要望や意見となっている。家族に対する職員の対応の仕方の教育を、管理者は行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティング時に職員から意見や提案を聞き、話し合った結果を反映できるようにしている。		日々の生活の中で、気づいた利用者の介護についての意見や提案がケアに生かされている。業務内容に関して、ある種の業務は、職員の勤務体制の中での変更が効果的でないか、などの意見も出され、ミーティングで話し合い、活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度や能力などを精査し、給与にきちんと反映する体制を整えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修を受ける機会があり、できる限り参加し、スキルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会に町の介護施設職員も参加をしてもらい、お互いに交流を図る機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや不安なことなど、できる限り聞きとって、スタッフ間でそのことについて話し合い、安心して生活していただけるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や契約時に困っていること、不安なことを聞きとり、その後も面会時に疑問に思うことや気になることがないか等を尋ね、ご家族の心配事を解消できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望を聞き取り、身体状況など、ご本人の状態と併せて配慮し、必要としている支援を行えるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをしていただき、その情報をスタッフで共有することで、継続して行っていけるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況をお知らせする手紙や行事等を報告する新聞を通して、ご家族に報告して、面会や外出などご家族の必要性をお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人が面会に来られたり、馴染みの整骨医院や美容室などに、ご家族の協力を得ながら、関係が途切れないように努めている。	職員と昔利用した駅に行き、売店の人と話したり、乗降客にあいさつしている。ドライブして、自分が住んでいた家を見に行くこともあつて、他のなじみの場所には、家族の同伴で行っている。神社への初詣などで、地域で有名な観光地にも出かけることがある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあい、一緒に作業やレクリエーションなどに取り組めるよう努め、それぞれの性格を配慮し、時にはスタッフが間に入り、交流を図れるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了・退所後の相談を受けていないが、支援できるよう、ケアマネージャーなどと連携に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から、それまでの生活や今後の希望を聞き、日々の言動からとらえられることと併せて、その都度本人にあったケアが行えるように努めている。	職員は、日々のかかわりの中で、利用者が発する言葉や態度で、思いや意向を把握している。ホーム内での予定が組まれているが、利用者の参加の意向を聞いて、無理強いくことなく支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を入所に関わった他職種やご家族・ご本人から収集して、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめに記録を行い、また、変化がある場合は、申し送りやミーティング時などで報告し、スタッフ全員が把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等で、ご家族や本人、スタッフの意見を聞き、介護計画に反映できるように努めている。	定期的な計画の見直しと、月1回の利用者の状態を考慮して、計画変更の必要はないかを検討している。更に、利用者の状況に応じて随時の見直しを行い、現況に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はこまめに行い、気になる変化があれば申し送りやミーティング等で報告して、対応について話しあうなど共有し、ケアを見直していけるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望にあわせて、スタッフ間でも話し合い、柔軟な対応が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各月の行事や園児の訪問、ご家族のボランティアで行われる演奏会など、楽しんでいただけるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療があり、その他、体調不良時には、併設の医院での対応が24時間出来るようになっている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化があれば、すぐに併設の医院へ連絡し、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会やご家族と連絡を取り合い、安心して治療できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を整えており、実際に重度化した場合は、ご家族・主治医・担当職員と話し合い、ターミナルケアのチーム作りを行っている。		入居時に、家族と利用者の意向を聞き、それ以後も状態に応じて話し合いを設けている。重度化や終末期に対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時など、連絡体制が決められている。定期的ではないが、応急手当や初期対応の勉強を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、現在協議中である。近くに消防署があり、昼と夜の消防訓練を行っている。避難体制についても職員全員で話し合い、周知徹底するように努めている。			
					回を重ねるごとに、実際的な避難訓練となることを期待したい。また、地震を想定しての訓練も含めてほしい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが行えるよう、スタッフ同士で注意し合うよう努めている。		ドアが開かれている居室に、職員は声掛けを必ず行い、入室している。利用者に気まずい思いをさせないよう、配慮した言葉遣いを行うように心掛けているが、忙しい中で、言葉が厳しくなることがあるので、管理者の指導、職員間での注意がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望などが言葉や態度で引き出せるような言葉かけ、対応を行っていきけるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にあわせて、個人毎に対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んでいただいたり、こまめに髭剃りや整髪の声掛けを行い、支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を毎年行ったり、本人の訴えや食事の様子から、好き嫌いの把握ができるよう心がけている。トレー拭きやおしぼりたたみ等をスタッフと一緒に出来ることをしていただいている。昼食時は、職員も同じ食事を一緒に摂っている。	3号館で専門の調理師が作ったものがふたつきのケースで各棟に運ばれ、配ぜんされている。利用者に丁寧をお願いをして、できることを手伝ってもらっている。職員の一人は同じ食事を食べ、一人ひとりの食事の進み具合を見ながら、声掛けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた献立を立てている。食事量や水分量を毎日記録に残しており、食事の状況から、一人ひとりの食事形態や量などの調整を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に出来ることはしていただき、利用者様にあわせて、介助や声かけを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のチェックから、排泄パターンを把握して、声かけ・介助を行い、また、立位訓練等を行うことで、排泄動作の自立につながるよう支援している。	排せつパターンを優先して、夜間も定時に起こすのではなく、利用者に合った時間にトイレ誘導をしている。パットの使用量が減ってきている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認し、運動や飲食物を工夫したり、時には医師、看護師に相談して対応を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた曜日の実施となっているが、希望があった場合は、柔軟に対応できるように支援している。	決められた曜日の入浴がなされているが、利用者の希望を聞いて、足浴だけにする場合もあり、利用者優先を心がけながら、入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時の様子を見ながら、本人の希望や状況にあわせて、ソファーや居室の方で休憩して頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を利用者毎に保存して、いつでも確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人、ご家族からの情報、現在の身体状況などに併せて、できることや以前からの趣味を継続できるような環境づくりに努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、積極的に散歩や野外活動の機会を設けるよう努めている。また、美容院や墓参り等、ご家族の協力を得て、外出する機会が得られるよう支援している。	利用者は、散歩コースを歩いたり、日常的に庭園での外気浴を行い、気分転換や五感刺激の機会として、日々の中で生かしている。当人が望むところに出かけられるなどの支援も、家族の協力を得て行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、事務所かご家族が預かり、本人は所持できていないが、野外活動時にお金を使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にあわせて、手紙や電話のやり取りの支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花を飾ったり、制作物を飾るようにしている。光や温度調節を時間帯や季節にあわせて、こまめに行っている。	空気の入れ替えはこまめに行われている。浴室は、使用後レジオネラ菌対策で消毒を行い、常に乾燥状態が保たれている。食事時は、音量を絞った音楽が流れている。季節の花がテーブルには飾られている。棟により自作の大きな取り替えカレンダー、大きな日めくり等が使用されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座る方、椅子に座りテーブルで過ごす方など、仲の良い方同士で過ごせるよう、できる限り工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族に相談し、本人の使い慣れたものや好まれる物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。	入居前に聞いていた音楽のCDとカセットが置かれていたり、以前に子供の買ってくれた使い慣れたテーブルといすが配置されていたり、日々使う小物が整理されて置かれている。物が置かれていないシンプルな部屋は、家族と利用者の意向である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きめのカレンダーを作り、日付がわかりやすいように設置し、居室がわかるようにネームプレートを置くなど工夫している。			